

図書館へ 行こう

—暮らしのなかに図書館を—

私たちの地球について考えよう

地球が生まれて46億年といわれます。かけがえのない地球は、私たち人間だけでなく多くの生きもの、そして自然と共存しています。地球について深く考えるための本を紹介します。

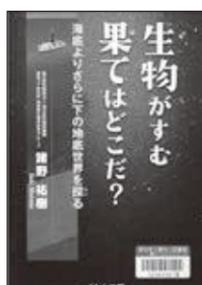
開館時間 10:00~18:00
 ■愛知川図書館 (☎0749-42-4114 FAX0749-42-8484)
 休館日 月・火・祝日・月末水曜日
 ■秦荘図書館 (☎0749-37-4345 FAX0749-37-4309)
 休館日 木・金・祝日・第1水曜日
 ホームページアドレス
<https://www.town.aisho.shiga.jp/toshokan/index.html>

生物がすむ果てはどこだ?

—海底よりさらに下の地底世界を探る—

諸野 祐樹 著 くもん出版

日本が世界に誇る科学掘削船「ちきゅう」で海底を深く掘り進んだ記録です。海底に降り積もる泥であるマリンスノーは、海底の地層となっています。海底からとても深いところに微生物が住んでいることが発見されていますが、地層のどこまで生きものがあるのでしょうか。小中学生向けの本ですが、大人も科学の力について興味深く、楽しく読むことができます。



地域の〈環境ものさし〉

—生物多様性保全の新しいツール—

浅野 悟史 著 昭和堂

生物多様性の危機が問題となっていますが、日本列島は世界の「やばい場所」36地域のひとつといわれます。著者は滋賀県甲賀市で、水田あたりの二ホンアカガエル卵塊数を環境の健康度を測る「環境ものさし」として、地域住民との協働研究を実践しています。人間活動の影響が生物多様性を低下させる一因であり、人間と自然が関わり続けることについて考えさせられます。



図書館システム更新による

秦荘・愛知川図書館・びんてまりの館 臨時休館のお知らせ

令和4年(2022年)9月19日(月)~9月30日(金)

図書館システムの更新作業のため、上記の期間、臨時休館させていただきます。臨時休館期間中、図書館ホームページが停止します。また、電話での資料についてのお問い合わせ・予約・借りている資料の延長はできません。返却は、各図書館のブックポストをご利用ください。皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

図書館からのお知らせ

古文書をよむ会

日時 9月9日(金) 14:00~15:00
 9月18日(日) 10:30~11:30
 場所 愛知川図書館
 対象 どなたでも参加いただけます

愛知川図書館おはなし会

日時 9月17日(土) 13:30~13:45
 参加者多数の場合は2回目を14:00~14:15で行います。
 場所 愛知川図書館
 対象 町内在住または図書館貸出カードをお持ちのご家族で、3歳から5歳くらいまでのお子さんご家族
 ※申し込み不要・各回先着3組

オーダーメイドおはなしかい

場所 秦荘図書館
 お子さんに合わせたおはなしのプログラムを用意します。開催日時と詳細は、秦荘図書館へお問い合わせください。

あたまいきいき音読教室

日時 9月13日(火) 1回目 10:30~11:15
 2回目 13:30~14:15

場所 秦荘図書館
 対象 町内にお住まいの方
 もしくは図書館の貸出カードをお持ちの方
 ※申し込みが必要です。申し込みは秦荘図書館までお願いします。
 ※9月13日(火)に変更します。

おひざでだっこのおはなし会

日時 9月11日(日) 1回目 11:00~11:15
 2回目 11:30~11:45

場所 愛知川図書館
 対象 2歳くらいまでのお子さんご家族
 (町内在住または図書館貸出カードをお持ちの方のご家族)
 ※申し込み不要・各回先着3組

愛荘町は読書のまち「愛荘町まちじゅう読書の宣言」

壺中雑記 (20) —歴史文化博物館から—

愛荘町の顕彰碑 —丸橋 茂平氏の場合—

明治から昭和期まで秦川村(現愛荘町)や滋賀県県政の一翼を担った人物、丸橋 茂平。彼の功績は顕彰碑として松尾寺に建立され、現在の私たちに語り継がれています。今回、この顕彰碑と明治37年の日誌について紹介します。

松尾寺にある顕彰碑

松尾寺にある大行社の近く、川の隣にひととき大きな顕彰碑を皆様ご存じでしょうか。また、誰の顕彰碑かご存じですか。

顕彰碑に記載されている人物は丸橋 茂平氏です。明治から昭和初期にかけて秦川村(現愛荘町)や滋賀県で活躍された政治家です。

丸橋 茂平(1873-1956)は愛知郡秦川村松尾寺で誕生し、明治37年に村会議員、同年44年に県会議員となります。

また、大正8年から昭和2年まで秦川村の村長を歴任されました。

さらに、愛知郡政友会に所属し、愛知郡の政治に関わりを持ち、郡制廃止に伴う群道の移管事業、郡立愛知実業学校廃止等、愛荘町や愛知郡に関わる様々な事業に尽力されました。

丸橋 茂平氏顕彰碑の現在

そんな経歴の持ち主であった丸橋 茂平氏の顕彰碑について簡単に紹介します。

顕彰碑の表面は二つのブロックに分かれおり、上部は篆書体、下部は楷書体が刻まれています。下部には丸橋氏の経歴、裏面には碑の制作年月日と建立した



▲丸橋 茂平氏顕彰碑(正面からの写真)

人々の名前が刻まれています。

碑の状態は長年の風雨によって、遠くからでは読むことができません。近くに寄らないと文字が読めず、特に右上部分の文字の判読が困難な状態です。そのため、碑の内容を知るためにはさらなる調査が必要となります。

碑文以外からのアプローチ

次に、顕彰碑以外から丸橋氏の業績を知る手がかりについてお話しします。

顕彰碑以外に丸橋氏の業績を知る手がかりは、秦荘町史第三巻や愛知川町史第二巻、また『史学は死学にあらず』(サンライズ出版、2009)などに詳細に記載されており、いずれも町立図書館に所蔵しています。

また、丸橋家文書の中には明治37年1月から12月までの書き記された日誌が残されています。

日誌の中を見てみると、1日の流れが詳細に記載されており、他には天候の記載も見受けられます。当該時期が村会議員の時期のためか、記載内容の多くは議会や村政に関する事柄が多く収録されています。

最後に

今後も引き続き、碑文や日誌の中身を調査し、近代、愛荘町の政治家の活動の一端を紹介できるように調査を進めていきます。

歴史文化博物館 学芸員

新木 慧一